

本研究では、環境配慮行動を題材として、外的誘因によって喚起される外発的な動機づけが、自らの主体的な意思によって行動しようとする内発的な動機づけに与える影響について実験した。外的な動機づけが内発的な動機づけへと変化するには一定の時間がかかると考えられるため、実験により外的誘因を喚起させた一週間後の動機や行動を測定した。具体的には、被験者に動機づけを内在化させる外的誘因として電気料の算出を行わせた。実験では、外発的な動機づけと内発的な動機づけそして無動機づけに加え、行動、一般的態度、コスト評価も測定し、それぞれ、外的誘因を与える直前、直後、そして1週間後に質問紙を用いて測定した。その結果、動機づけ・行動・態度・コスト評価が高まったことから、動機づけと態度においては外的誘因の効果が持続することが見られた。しかし、外的誘因が外発動機づけと内発的な動機づけ両方に同時に影響を及ぼしたことから、外発的な動機づけの内在化については十分な確認ができなかった。

キーワード：動機づけ・自己決定理論・内在化・環境配慮行動・経済的コスト